

美術作品収集方針等の県民説明会の意見概要

| 地 区 | 日 時 等 | 参加者数等 |
|-------------------------|-----------------------------------|-----------------|
| 県民説明会(県教育委員会主催) 岩美会場 | 10月29日(土) 13:00-14:30 岩美町中央公民館 | 約30名 会場発言者8名 |

会場発言者①

- ・建設地は何年か前に地震があったが大丈夫か。
- ・購入作品が 3 億円で県民みんなびっくり、全体のコレクションに当てる予算は幾らか。それと、どなたがこの購入を決定されたのか。
- ・鉄筋アート、鉄筋彫刻の収集もぜひ。
- ・ロゴ・シンボルマークの一般投票の方法が LINE のみで、LINE を使っていない私は「いったいどうしてくれるんだ」と思う。ちょっと問題があるのでは。

→梅田美術館整備局長

- ・ご心配の鳥取県中部地震は大きな地震だったが、建設にあたっては耐震構造をしっかり設けて揺れについては大丈夫。あわせて、収蔵庫では作品ごとに免震装置を一部設置しており心配に及ばない。また、収蔵庫は 2 階で水害にも耐えうるよう作品を置いている。
- ・ロゴ・シンボルマークの一般投票が LINE のみの投票方法について、実は他の方々からもいろいろご意見があった。全国の例にある組織票の問題などを心配しての作戦であった。一般投票の結果で自動的に決まるのではなく、LINE による一般投票を審査員 1 票と考えて、他の 5 人の審査員と含めて総合判断で決定する仕組みとして進めさせていただいた。

→尾崎美術振興監

- ・収集に関する質問について、まず美術品の特殊性として、作品自体が非常に高いことや 1 点しかないのだからその作品が市場にあるわけでない。そのため、美術品取得基金で 5 億円を用意している。これは、通常の手続きには非常に時間がかかるが、いいものが市場に出たらすぐには買えるような状態をつくっており、多くの美術館がとっている手法である。基本的に年に 5 億円まで買える。今回、ウォーホル作品のことばかり取り上げられているが、県ゆかりの作家も近世絵画も買っており、ウォーホルはその中の 1 点である。
- ・作品の購入の流れとしては、収集方針を立て、収集方針のうち欠けている部分を集めていく。次は何を買うぞという買い方ではない。アンディ・ウォーホルの作品購入の経緯としては、この見取り図の「前衛精神を示す作品」というものが欠けていて、ウォーホルという 20 世紀を代表する作家の代表作で日本にほとんど所蔵していない立体作品の情報がたまたま運よく入ったので、これを買おうとした。こういう情報に基づいて買いたいと学芸員で合意でき、それを教育委員会、知事部局に上げていく。それを美術資料収集評価委員会に諮ってもいいということになれば、委員会に諮る前に価格、真贋、状態について複数の専門家により判定してもらい、ウォーホル作品は幾らぐらいなるかその平均をとった表を作成する。あわせて、オークションではいくらで売れているのか他の美術館ではいくらで買っているのかなど細かく調べ、資料として委員会の評価にかけると。この委員会は、大学教授、博物館長クラスの見識のある方々で構成されており、この作品をこの値段で買っていいかについて、場合によっては「これは買ってはいけない」とか「もっと安く買って」と判断ができる。我々はそれに基づいて相手方と交渉し、その交渉がまとまった場合に教育委員会が買う。こういった流れから、購入の決定は外部の委員会の判断に基づく。
- ・鉄筋彫刻の作品は現在収蔵していないが、特に同時代の作家というのは意図的に集めていこうと思っており、ほかの作家も含めてたくさん集めていく。

会場発言者②

- ・購入総額は幾らか。
- ・この県立美術館に充てる美術品の購入予算の総額は幾らか。
- ・開館まであと 3 年として、15 億円は使えるということか。

→尾崎美術振興監

- ・《ブリロの箱》は 5 点のうち 1 点が 1968 年の作品で、ほかは 1990 年。これらは組作品ではなく 1 点 1 点が作品であり、1968 年の作品が約 6800 万、1990 年作品がそれぞれ約 5500 万円。
- ・基金というかたちで年間 5 億円まで買え、使った分は次の年に補填する。

- ・美術品というのはいつもあるわけではなく、収集方針の見取り図で抜けているものがたまたま出てきたら買おうとするもので、無いのに買う必要はない。全額使うということはまずないと思う。

会場発言者③

- ・日本全国に何千という美術館や博物館があり、人口 50 何万人の鳥取県の美術館にどうして人を集めるのか。年間 18 万人と聞いているが、この3億何千万円の作品を買って、30 万人も 50 万人も集まるのか、難しいだろう。
- ・この作品について何十人かに聞いてみるが、「すばらしい」と言う人は一人もいない。それだけ認識が足らんのかもわからん。新聞にはベニヤ板と書いてあるが 3 億数千万円もかけるほど値打ちがあるものか、県民の 9 割はわからないし理解できない。
- ・少ないお金でこの美術館を有名にしようと思ったら、洋画、漫画、写真、なんでもいいが、2025 年の開館までに全国公募する。入選したということになると、全国からその人と親戚や同級生やみんな集まってくる。こういうものを集めた方がより有効的だと思う。そういう資金に使っても総額 1 億円を使ったら、マスコミも日本国中大騒ぎで集まってくる。
- ・それから、鳥取県の佐治石というものを展示することも考えてほしい。

→尾崎美術振興監

- ・《ブリロの箱》はウォーホルの代表的な作品でありこの立体作品は国内にほかに無いことから、国内外から見に来るに値する作品だと考える。こうした説明会での印象としては賛否が相半ばしていると感じているが、私としては、20 年 30 年後に鳥取県にあって良かったと皆が思うと確信して、この作品の購入を決めている。

→梅田美術館整備局長

- ・全国から応募されて、若手の方々が集まるというのもすごくいい効果だと思っている。同じようなこととして、倉吉博物館が「前田寛治大賞」と「菅橋彦大賞」で全国公募していて、若手作家の素晴らしい作品が蓄積されている。全国で知っている人は知っているが、県内でこれらの大賞のことをご承知されている方はまだまだだろうと思っており、県内外、全国から注目を集めるというのはなかなか一足飛びにはいかない話だろうと思っている。コンクールをするとしてもこれはしっかりPRをしながら多く集めないという効果が出ないという話で、いいアイデアだとは思いますが実施にあたっては検討してまいりたい。
- ・それから漫画のコンクールもいい広報であり、同じようなことを北栄町さんがずっと続けていらっしゃる。いい手法だと思いながら、それを真似してもなかなか難しく、漫画コンクールをするにしても反響を集めるような仕掛けを伴わないと難しいと思っている。
- ・年間 18 万人は難しいとのご意見にいて、私どもが議会とも話をする中では、実は年間目標 10 万人と非常にかたく小さく見積もっている。パートナーを結んだ民間事業者はそれを上回る 18 万人という目標を立てており、ぜひ民間の力をしっかり発揮していただくことを期待しているところ。一方で、倉吉会場では 100 万人を目指せという声があり、そういう気概は持ちたいと思っており、そのためには国内外に轟くような作品というのやっぱり必要なんだろうなというふうに考えている。発信に努力してまいりたい。

会場発言者③

- ・「貴重なもので、1 点しかない」「素晴らしいものだ」と言うならば、50何万人の鳥取県に置くよりも、一千万人、何千万人いるところに作品を置いてあげた方が作品も喜ぶと思う。

→尾崎美術振興監

- ・鳥取県の若い人に見せるために我々は買った。都会からもぜひ見に来てもらいたい。

会場発言者④

- ・20 代の自分は、アンディ・ウォーホルの作品購入はすごく賛成で、非常に素晴らしいことだと思っている。
- ・美術品のことは詳しくわからないが、「日本人には価値がわからない」ということなら、今後のインバウンドを見込んで海外に発信できる、鳥取県に集まってくるのは素晴らしいこと。また、「財政力が弱い」という指摘には、分散投資でなく美術分野に集中的に投資するということも素晴らしい。おそらくアンディ・ウォーホルの作品は高価なものだと思うが、このようにたくさんのメディアが取材に来られているというところで、あくまで広告費を少なく抑えてそれ以上の集客を見込むということも素晴らしい点の一つだと思っている。

・こういったかたちで、若者も、鳥取県に人が集まることで行動しやすい環境づくりをしていただけるという点で、非常に感銘を受けている。今日は感謝の気持ちをお伝えしに来た。

会場発言者①

- ・買ってしまった《ブリロの箱》は活かすしかないと思うが、このポップアートの部門を充実させないといけないと思う。現在、コレクションの中に同じような部門のものがあるのか、今後もこれを充実させるために買い足していくのか知りたい。それと、国内に同じような分野の美術館があるのか。
- ・鳥取藩の美術品が海外流出した話を聞いており、美術館が買い戻して「鳥取にはこんなすばらしいものがあつた」ということを県民に知って欲しい。鳥取藩の能面も素晴らしいものがたくさんあり、収集してはどうか。

→尾崎美術振興監

- ・収集方針で欠落した部分を買っていくというのが我々の方針であり、こういったポップアートについてはかなり重要なものをすでに手にしているので、基本的には買い足すことはない。ウォーホル美術館やポップアート美術館にするつもりはない。この箱だけを見ると訳がわからないと思うが、例えばポップアートの他の作品や同時代の他の作品と並べると、つまり展覧会の中で文脈をつくっていくことによって作品の意義が非常に深まると思う。おそらくこの《ブリロの箱》は開館記念展で初めて公開することになると思うが、そういった文脈をしっかりと見せて「なぜこういった箱が作品になったのか」「ウォーホルがなぜこういうものを考えて作品を作ったのか」ということを理解していただくようにしたい。
- ・鳥取県立美術館の方針というのは、例えばポップアートとかアメリカの戦後美術を集めていくというところの方針ではなくて、むしろ今あるコレクションに少しずつ良いものを増やす拡大していくという特色が無いのが特色みたいな方向に進もうと考えている。例えば今おっしゃったアメリカの戦後美術は、滋賀県立美術館や福岡市立美術館が特化したものを持っている。
- ・鳥取藩に関する収集については、そういったものは収集方針に入っておらず、鳥取藩ゆかりのものは県立博物館に収集すべきだと思っており、そこは区別をしていきたい。

会場発言者⑤

- ・話を聞き、将来、子どもたちが本当に情操面で役立つような美術館になると夢を描かしていただいた。
- ・アンディ・ウォーホルの作品は 3 億円ですごいなと思うが、作品を前にしたら、おそらく「うん、なるほど、こういう面で価値があるんだろう」というふうに納得いくだろうとは思っている。
- ・高齢者の立場としたら、常設展を見ながらちょっと休息を取りたいと思うが、美術館のどこに行ってもあまりそれがない。
- ・アクセスについて考えていると思うが、この岩美町から中部に出ようと思うとなかなか大変な状況。この辺りもお願いをしたい。

→梅田美術館整備局長

- ・年配の方々にも美術館の役割を感じていただく、しっかり受けとめていただくってことを目指したい。
- ・館内の休息場所については、スクリーンに映した図面をご覧いただきたいが、2 階の常設展示室の周りや屋外テラス、1 階の「ひろま」や屋外テラスで座ってお休みいただける。「ひろま」の右手にはカフェがあり、ホッと一息ついてお茶を飲むこともできる。さらに 3 階も、展望テラスで腰掛けながら外の風に吹かれ気持ちよく過ごしていただける。ご紹介した所は展示室以外で、お金を払わなくても自由に歩いていただける所。絵を見ない日でも使っていただける休憩場所になりうると思っており、立ち寄っていただきたい。
- ・岩美町から倉吉市まで 50km 余りあるが、本日、車で 1 時間で来ることができた。JR もそうだが、車の便で言うと非常に近くなってきていると感じている。これはまだ検討中だが、例えば年に 1 度「岩美町の日」を設けて、役場集合で美術館までバスを走らせるツアーをつくることができれば、楽に出かけて帰っていただける。私どもが直営で実施するというよりは、県内の交通事業者さんと話をしてそういうツアーができないか検討しようとしているので、ぜひご期待いただきたい。

会場発言者⑥

- ・学校の校外学習で美術館に行くとして、絵の説明だけでなくその場でデッサンができるか。持参した弁当は館内で飲食可能か、隣接する倉吉未来中心へどうぞとなるのか。
- ・今、児童や生徒がタブレットを持っており、そのITをどのようにして活用していくか。広がりを持つてののではないか。
- ・これまでに、小学生 4 年生以上とか中学生、高校生、大学生と「どんな美術館にしたいか」「どうしたほ

うがいか」議論したことが今まであったか。[県立美術館のコンセプトは]「未来をつくる」であり、今、本当に自分の思っていることを率直に言えるのは彼らであろうと思っている。

→尾崎美術振興監

- ・現在でも、鉛筆を持って入ってメモはしてもらっている。デッサンについては、他のお客さんから苦情が残念ながらある。積極的に美術館を使っていただく場合に、例えば休館日にデッサンをしていただく配慮が必要だと思っており、そういった方向のことは十分にやっていきたい。
- ・IT 機器の利用については、多くの巡回展でスマホによる解説を行っていることが多く、十分対応できている。
- ・子どもたちの食べる場所は「ひろま」辺りを想定しているが、これから PFI 事業者と美術館利用の決まりごとを検討していくなかで、考えていく。

→梅田美術館整備局長

- ・デッサンもそうだが、「対話をしながら鑑賞する」対話型鑑賞を進めていくにあたって、実は「美術館の静かな環境で鑑賞したい」という人もいらっしゃるで、他の方たちへの配慮、共存が一つの課題。休館日の活用や時間を区切ることが方法として考えられる。デッサンであろうと鑑賞の仕方であろうと、美術館を利用する誰かの見方、誰かの仕方が認めないというのは、これから「未来をつくる美術館」としては失格だと思うので、ぜひいろいろな方々の美術館の利用の仕方をうまく調整して、それぞれの方の夢がそこで開けるように進めていきたいと思っている。
- ・タブレットの活用については、鳥取県議会でそういう質問もいただいたことがある。答弁したが、これからの時代、何らかの使い方をしていきたい。
- ・子どもたちの意見交換については、ひざ詰めでやっていく価値はあるなど思っていた。本日も夢アンケートの用紙をお配りしているが、美術館にかける夢をアンケートというかたちでとっていて、子どもたちからの夢も寄せられている。いろんなイベントでペタペタ夢を貼ってもらうこともやっており、子どもたちの意見も受けとめながら進めてまいりたい。

会場発言者⑦

- ・この《ブリロの箱》云々でなくて、県立美術館がこの先どうなるのか、どんなもんができるか興味・関心がある。
- ・本日は、収集方針の説明があり「なるほどな」というところもたくさんあったし、5 億円の基金という具体的な数字も理解し知ることでもした。それ以外のことで、調査研究や展示に関する方針はどうか。またなんらかの機会で発信していただければと思う。特に調査研究について、学芸員は何人いて、どこの分野が専門なのか。すべての分野は専門家がおられるのか、充実してもらえばいい。
- ・小学 4 年生全員招待の説明があったが、なぜ 4 年生なのか。理由があつてそういうふうに決めているだろうが、何年生でもいいではないか。
- ・このほか、入場料や展示室利用料がどうなるのか関心がある。県内のマスコミさんでも結構なので、いろいろ私たちにも教えていただきたい。
- ・県立美術館が常設展示や企画展示を主催されるが、例えば企業や、他の国立・私立の美術館と共同しているものを誘致して県民に見せていただきたい。それらの方針も教えていただければと思う。
- ・屋外作品はどうか。現在の収集方針は、また数年経つたりすると変わっていくだろう、時代とともに変わっていくのだろう。
- ・質問として、県立博物館の美術部門が無くなったら、県立博物館はどうなるのか。県立美術館の作品を使って県立博物館で移動展示するのか、そのあたりも興味がある。
- ・3 年 4 年後ぐらいに、「当初は 10 何万目指していたが、3 万人だ」「20 万人だ」と、人数だけでマスコミさんはすぐ判断されるが、人数だけで判断しないで欲しい。日本の人口は減っていくわけで、ぜひマスコミさんよろしく願います。
- ・本日は、本当に丁寧な説明をしていただいた。関心があるので、今後もこういう会をつくっていただきなり、ケーブルテレビに出演することも含めてうまくメディア等を利用していただきたい。
- ・最後のお願として、壁を打ち破っていただきたい。今までにない美術館として、あつというような企画を考えて、県民の方にも聞いていただいて、私たちの日常生活を豊かにしていただければと思っている。

→尾崎美術振興監

- ・県立博物館は美術部門が出ましたら、自然と人文、歴史部門が残る。美術についても、この美術館をつくるときには[鳥取県議会の]附帯決議で、鳥取藩絵師、工芸も実はある程度残しておくようにといったことがある。

また、寄託していただいている作品は県立博物館に残すか県立美術館に移動するかは最終的には寄託者が判断されるもの。県立博物館には収蔵庫的なものもある。

・県立博物館では移動美術館の拡大版みたいなことを検討している。また、今おっしゃったような大規模な団体展をどうするかみたいなことも含めて今考えているところで、またご報告させていただく。

→梅田美術館整備局長

・規制にチャレンジするという気持ちは持っている。「未来をつくる美術館」らしい壁を破るような取組み、これに挑んでいきたい。

・小学4年生の招待は、各教育委員会さんと話をしながら進めていこうとしている。とりあえず、[抽象概念が理解できるようになる]4年生を一つの基準として設けてみたということで、柔軟に考えていきたいと思っている。

・せっかくなので、岩美町にも再々来ささせていただきたい。

→尾崎美術振興監

・美術学芸員は8名おり、3名が普及部門、5名が美術部門でそれぞれ専門が違う。ほぼオールジャンルに対応できる体制をとっている。

会場発言者⑧

・この会があるというのを知ったのは昨日で、会場は定員に達していない状況で、あんまり宣伝が上手ではなかったと思っている。同じようなことが、新しくできる県立美術館に起きなきゃいい。

・県立博物館は本当に駐車場が無いが、県立美術館は大丈夫か。例えば、どこかに駐車場を設けておいてバスでピストン輸送することも可能ではないか。鳥取県でクルマ移動以外のいいアクセスは考えられない。

・エレベーターの広さやトイレの数が気になった。目玉としてエレベーターを3台くらいにできないのか。鳥取県は障がいのある方々への配慮が全国的にも優れた県だと思っている。始まった後も、常にこう県民の意見が届くようにそういうシステムを考えていただければと感じている。

→梅田美術館整備局長

・駐車場については、おっしゃるとおり心配ごとはある。倉吉未来中心を中心としたパークスクエアというエリア全体で900台分あり、さらに倉吉市が、図書館との間に駐車場増設の動きがある。おっしゃるようなシャトルバスは、パークスクエアで大きな催しのときにすでに行っており、何とかなると思っている。

・美術館のバリアフリーについて、設計前、設計中、そして施工中の都度、県内の福祉団体さんと協議の場を持ち、いろんなご注文をできる限り反映するかたちでブラッシュアップしている。エレベーターは、車椅子と介助の方が入って問題なくターンができるとか、どの階にもオストメイトのトイレを設置するなどして設計、施工を進めている。その点についてはかなりレベルの高いものだと思っている。